

みんなので支え合おう 安心な地域を目指して

市は、市社会福祉協議会と連携し、一人暮らし高齢者などの「見守り」に関して「にこにこネット」事業などを行っています。現在、市民や企業などに協力を呼び掛け、事業の効率を高めることで、誰でも安心して生活できる地域の形成を目指しています。

■問い合わせ 本庁福祉課地域福祉係（内線226）

市の現状と「見守り」の取り組みに向けた考え方

人は誰でも、住み慣れた地域で安心して健康な生活を送っていきたくて願っています。しかし、私たちの周囲を見回した時、高齢化などの進行により、日中あるいは常に一人で過ごしている高齢者、障がい者、認知症の人が増えています。さらに、家庭で介護をしている世帯、高齢者のみの世帯、障がい者世帯、一人親世帯なども増え、これらが一般的な世帯形態となりつつあります。このような世帯では、社会的なつながり

が希薄化していたり、身体的な理由から外出の機会が少なくなるなど、地域や社会から孤立しがちです。急激な少子高齢化に伴い、市の高齢化率は平成23年9月末現在で29.42%^{※1}になっていきます。また、市内で孤独死を確認した件数は、21年度が3人、22年度が4人、23年度では9人と増加の一途をたどっています。高齢者や障がい者の中には、健康や生活に不安を持つ人なども多く、相談・支援の場が必要となります。また、子どもたちが、登下校時に不審者から声を掛けられる事案も多発しており、その対策も急務となっております。

こうしたことは、私たち個人や家族だけの問題ではなく、地域全体の課題であり、住み慣れた地域で安心して生活できるようにするため、住民一人一人ができることを考え、行動していくことが大切です。

小地域福祉ネットワーク「にこにこネット」事業

市と市社会福祉協議会では、小地域福祉ネットワーク「にこにこネット」事業に取り組み、災害時要援護者避難支援計画を策定することで、市民の温かい「思いやり」と「見守り」

り」による、地域の「支え合い」の体制づくりを進めています。

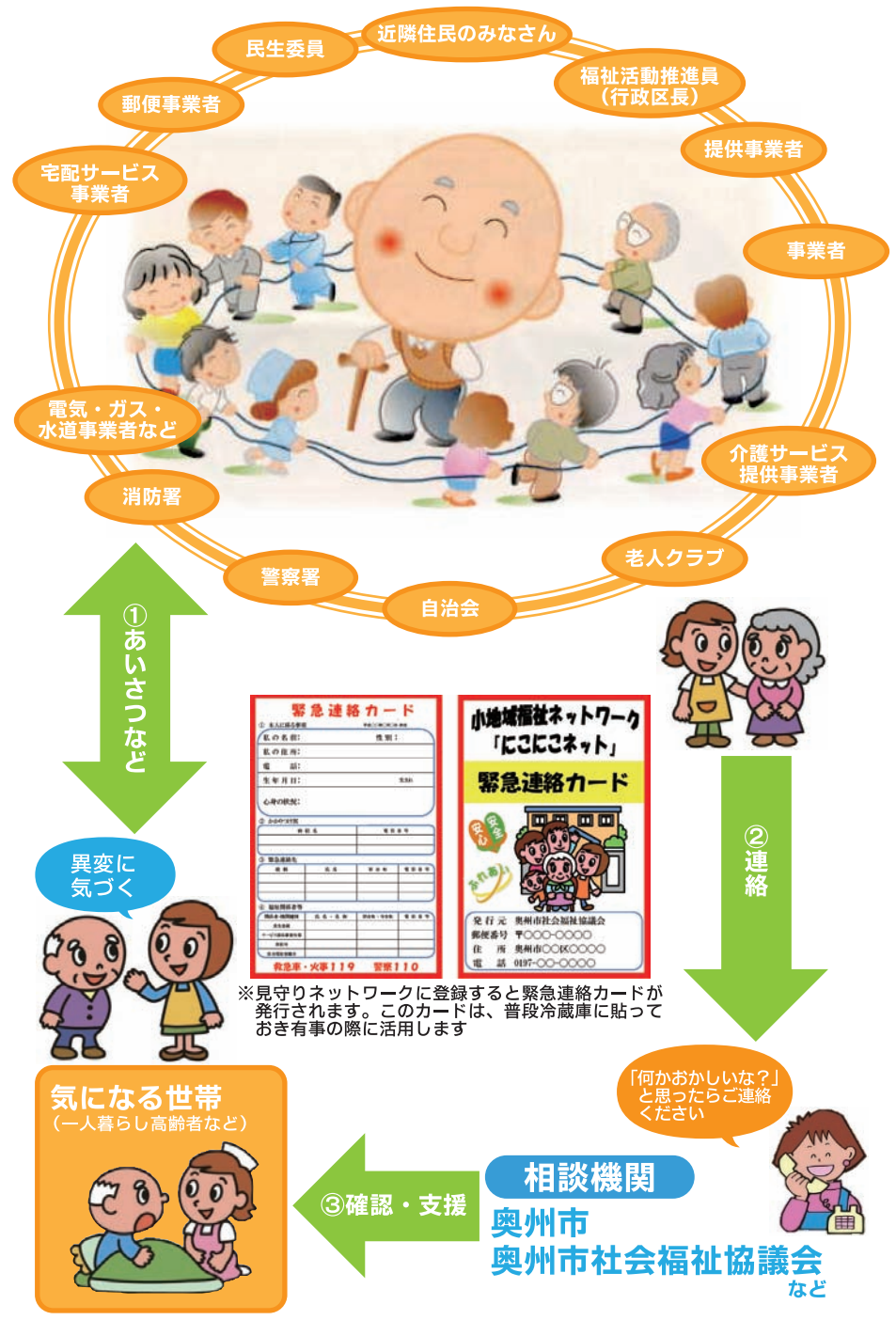
この事業は、住民同士が日常生活において連絡・連携しながら、お互いの生活を支え合っていく活動です。「住み慣れた家、地域で暮らしたい」という願いを可能な限り実現するため、一人暮らしの高齢者などに対し、非常時の早期発見につながる友愛訪問や日常生活の援助を行います。さらには、身辺介護、外出援助などさまざまな支援活動を行い、孤立しがちな人間社会関係の再構築へつなげていきます。なお、これらの取り組みは「地域とのつながり」が最も重要となるため、地域住民の協力を得ながら活動します。

支援と協力者

具体的には、次のような世帯に対し、地域協力が話し相手になったり、生活上のちょっとした手伝いなどをを行うというものです。

- 孤立化や徘徊が心配される世帯
- 病气などにより安否確認や見守りが必要な世帯
- 障がい者世帯
- 買い物などの外出が困難な世帯
- また、地域協力は、次のような人たちにお願ひすることになります。
- 近隣住民
- 親戚

■小地域福祉ネットワーク「にこにこネット」見守り体制図



- 台帳の整備
- 対象となる世帯を把握するため、
- 友人・知人
 - ボランティア
 - 福祉活動推進員（行政区域長）
 - 民生児童委員
 - ご近所福祉スタッフ

「にこにこネット」台帳を整備し、希望する人に登録していただきます。民生委員などの福祉関係者が本人に確認した上で登録となります。

緊急連絡カード

登録者には「緊急連絡カード」を配付します。

このカードは、病气やけがなどによる緊急時に必要な情報が記されているもので、緊急時の連絡先などが即座に把握できるようになっています。常に持ち歩ける携帯用カードもあります。



※1…総人口に占める65歳以上の割合
 ※2…ボランティアの訪問員が、生活困窮者や一人暮らし高齢者などの自立を促すため個別訪問する活動